

## 朽木を掘って昆虫観察

中学 2 年 三井 康世  
森元 創心  
I.A.  
T.K.

### 1. はじめに

昆虫採集、昆虫観察などの言葉を聞くと、多くの人は暑い夏の日に半袖短パンの子供が虫捕り網を振っている風景を想像するかもしれない。しかし、寒くて昆虫などとは無縁に思える冬にも、昆虫を観察することができるのである。我々が朽木を掘って観察できた虫たちを紹介しよう。

### 2. 観察に必要なもの

- ・スコップ…朽木には硬いものから柔らかいものまでであるため、掘る時はスコップを使用する。
- ・軍手…スコップで手を傷つけないようにはめておく。また、昆虫に噛まれるのを防ぐことができる。
- ・ピンセット…朽木の中の昆虫を傷つけないように取り出せる。小さな昆虫も扱いやすい。
- ・透明な収納ケース…見つけた昆虫を観察できる。仕切りがあるため、肉食の昆虫が他の昆虫を捕食するのを防ぐことができる。
- ・ポケット図鑑…見つけた昆虫の種類をある程度同定できる。

### 3. 観察

六甲山のある地点(標高 71m)において観察を行った。周りには広葉樹の林があつて低木やササが生えており、地面には落ち葉が積もっていた。朽木もいくつがあつた(写真 1)。



写真 1

### 4. 観察できた昆虫たち

- ・肉食性のコメツキムシ類の幼虫 4 匹(写真 2)

コメツキムシはコウチュウ目カブトムシ亜目コメツキムシ上科コメツキムシ科に分類される昆虫の総称である。体長は日本産のものでは 1mm から 40mm まで様々であり、日本各地に広く生息している。幼虫の生活場所は地中や朽木の中など、種によって異なる。食性については肉食性の種も植食性の種もあり、植食性の種の中には幼虫が農作物に被害



写真 2

を及ぼすものもある。仰向けになると胸部を使って勢いよく跳ね上がることで知られ、この動きが米をつく時のものに似ていることが和名の由来になっている。今回観察できた幼虫の中には体長 50mm 以上の終齢幼虫がいた。

・コクワガタの幼虫 7 匹(写真 3)

コクワガタ(*Dorcus rectus*)はコウチュウ目クワガタムシ科オオクワガタ属コクワガタ亜属の一種で、北海道、本州、四国、九州に広く生息する本土亜種と八丈島、屋久島、三島村、トカラ列島にそれぞれ生息している 4 亜種の計 5 亜種に分類される。体長は、オスは 20mm 前後のものから 55mm のものが、メスは 20mm 弱のものから 30mm のものがある。成虫は樹液を、幼虫は朽木を主食としている。日本で最もよくみられるクワガタムシの 1 つである。



写真 3

・アオズムカデ(昆虫ではない)2 匹(写真 4)

アオズムカデ(*Scolopendra subspinipes japonica*)は、オオムカデ目オオムカデ科に分類されるムカデである。体長は 80~100mm で、本州、四国、九州に生息している。暗い青色の体色と黄色い肢が特徴であり、昆虫を食する肉食性である。また日本産のムカデの中では強い毒を持ち、人を咬むことがあるため注意が必要である。朽木を掘っていると突然出てくることがあるので、採集時の軍手着用は必須である。



写真 4

・ヤマトデオキノコムシ 1 匹(写真 5)

ヤマトデオキノコムシ(*Scaphidium japonium*)はコウチュウ目ハネカクシ科デオキノコムシ亜科に分類される昆虫である。体長は 5~7mm で、北海道、本州、四国、九州の山林に生息している。キノコを食し、素早く動き回る。腹端の 3 節が前翅からはみ出るのが特徴。同じような名前のオオキノコムシという昆虫がいるが、こちらはオオキノコムシ科に分類され、近縁ではない。

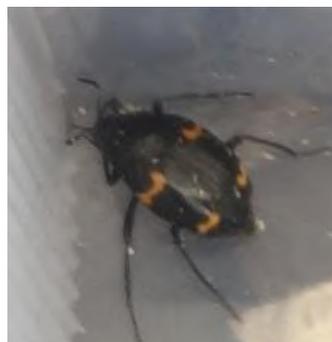


写真 5

・ヒゲジロハサミムシ 3 匹(写真 6)

ヒゲジロハサミムシ(*Anisolabella marginalis*)はハサミムシ目ハサミムシ科ハサミムシ亜科に分類される昆虫である。体長は18~30mmで、本州、四国、九州、沖縄に生息している。小型の昆虫や植物を食する雑食性で、翅を持たないため飛ぶことができない。

・ツチバチ類の繭 1匹(写真7)

ツチバチはハチ目ツチバチ科ツチバチ亜科に分類される昆虫の総称である。体長は20mm前後の種が多く、日本各地の土の中に巣をつくる。成虫は単独で行動し、花の蜜を吸う。幼虫はコガネムシ類の幼虫に寄生する寄生捕食性で、メスは土や朽木を掘ってコガネムシ類の幼虫を探して麻酔し、卵を産み付ける。

## 5. 考察

今回の観察ではコクワガタやコメツキムシ類の幼虫、ハサミムシが多くみられた。付近でいくつか他の朽木を掘ってみてもそのほとんどでハサミムシが多くみられた。一方、コクワガタや肉食性のコメツキムシ類の幼虫は他の朽木を掘っても腐食具合によって出てくるものと出てこないものがあった。これは、ハサミムシは冬をしのぎ産卵するために朽木に入るため、朽木を食べることがなく朽木の腐食具合にあまりこだわらないのに対し、コクワガタの幼虫は朽木を食べて生活するため食べやすい腐食具合の朽木を、肉食性のコメツキムシ類の幼虫は朽木を食べる昆虫を食べて生活するためそれらの昆虫が集まる腐食具合の朽木を、それぞれ選んでいるからだと考えられる。付近の他の朽木ではアシナガアリの集団やカミキリムシ類の幼虫なども見られ、多くの昆虫が越冬や生活に朽木を利用していることがわかった。

## 6. おわりに

以上のように、冬でも朽木を掘ることで多くの昆虫を観察できる。また朽木は菌の種類、腐朽具合によって生物相が大きく異なってくるため、どの朽木を掘るかによって多様な生物に出会えるのも魅力の1つだと我々は思う。しかし朽木は昆虫たちのすみかであり、掘りすぎることや過度に昆虫を持ち帰ることは生態系を破壊することにつながってしまう。これを読んで朽木観察に興味を持った方には、ぜひ生態系を破壊しないようマナーを守って朽木を掘っていただきたい。



写真 6



写真 7



写真 8(採集の様子)

#### 7. 参考文献

- ・ 森元桂 林長閑「原色日本甲虫図鑑(Ⅰ)」保育社 1986
- ・ 上野俊一 黒澤良彦 佐藤正孝「原色日本甲虫図鑑(Ⅱ)」保育社  
1985
- ・ 黒澤良彦 久松定成 佐々治寛之「原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)」保育社  
1985
- ・ 伊藤修四郎 奥谷禎一 日浦勇「原色日本昆虫図鑑(下)」保育社  
1977
- ・ 佐藤仁彦「生活害虫の事典」朝倉書店 2003
- ・ 鈴木知之「朽木にあつまる虫 ハンドブック」文一総合出版 2009